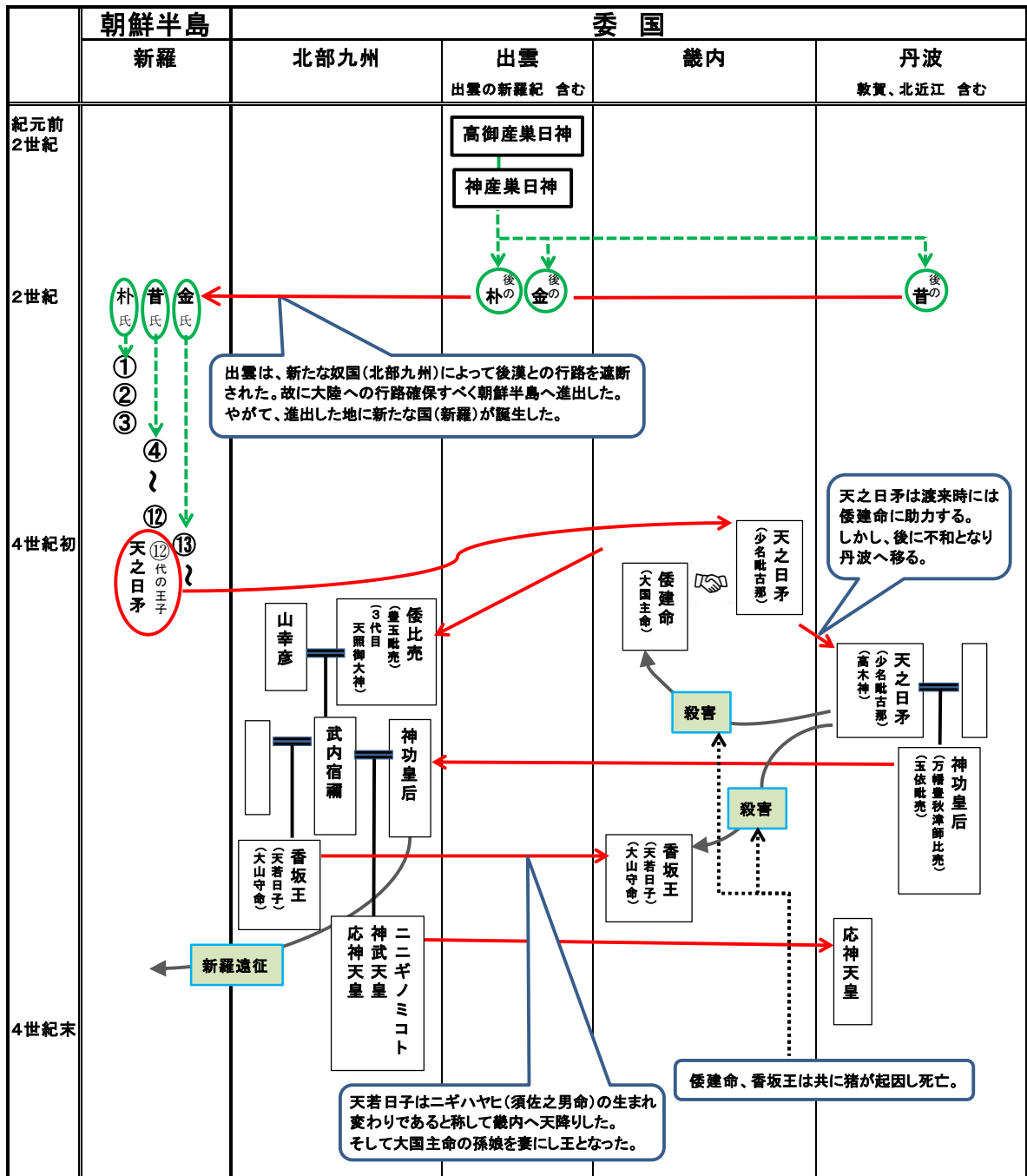


# 天之日矛

桑田昭弘（中四国支部）

古事記、日本書紀 及び風土記などに新羅王子である天之日矛が来日した事を記している。恐らく日本の歴史を語る上で欠くことが出来ない人物なのであろう。筆者が投稿した論文及び邪馬台国新聞にて天之日矛は、出雲の新羅紀から朝鮮半島に渡った民の末裔であり、少名毗古那であり、神功皇后の父親であり、神武東征等にて助言する高木神であるとした。以下に筆者が思い描く天之日矛を図表に著わしてみた。



古事記では倭建命と香坂王は、共に猪が起因して亡くなっている。天之日矛は、猪を思い描かせる人物ではなかろうか。

猪は古い大和言葉では「𤝵 (イ)」と呼んだ。「𤝵のシシ (肉)」が語源らしい。又、「亥 (イ)」とも表される。

「倭」を上古音 (漢時代以前) では「イ」と発音していたと言われている。つまり漢時代に日本は「イ」国と呼ばれていたことになる。

蛇足：漢時代には「倭」と「委」は、発音も意味合もほぼ同じ様だ。ならば元来の日本を

表す漢字は、「倭国」では無く より一般的な漢字である「委国」だったのでは。

古事記にて「イ」が付く名や地名は、イザナギ・イザナミ、イズモ、イブキ山 (伊吹山) があるが、何れも委国 (イ国) を表しているのではなかろうか。

3世紀に須佐之男命 (崇神天皇) は畿内に遷都し、国号を「ヤマト」と命名 (虚空にみつヤマト国) した。そして、その後の倭建命の全国制覇によって国名の「ヤマト」が受け容れられたと思われる。しかし、天之日矛が倭建命と対峙し居住した丹波 (敦賀、北近江含む) は、旧来の「イ国」と呼ばれていたのでは。

倭建命と香坂王が天之日矛 (イ国) により殺害された事を 人々は、「𤝵 (猪)」によって殺害されたと語り継いだ。